



資源化モデル集積所

ことで現実となったと思われる。

現在の運営委員会代表が中心となり、住民全員の理解や協力を得るのに苦労も多かったと思うが、それを得てこそ困難が生じた場合にも乗り越える事ができると感じた。また、住民主体ではあるが行

政のプロデュースとサポート力、この役割分擔がしっかりと守られていたのが後々の成功に繋がったのではないかなと思われる。

運営の目的について、地元住民のための施設運営から観光重視の運営になってきているが、今後も観光重視の運営

に取り組んでいくのが課題である。

集落の活性化対策として、地域内だけに目を向けた、若者や住民など「住む」人数を増やすという発想だけでなく、「交流人口」を増やし、そこから活性化につなげていくという発想も大事であると思われる。

わが町も多くの廃校跡地をどうするのかという課題に取り組まなければならぬ。

今回の事例のように、地域住民が主体となり行政がサポートできるような取り組みに期待したい。

徳島県吉野川市におけるごみの減量化の取り組み

資源化モデル集積所は、住民がいつでも持ち込み可能で非常に便利な場所である。曜日指定がなく、いつでも

持ち込みが可能であれば、日常のごみが各家庭の都合で出せる利便性は高いと思われる。

住民個人が買取業者に不要な物を売却できない「おいくら」は、興味深いシステムであり、業者が引き取りも行い、手間無く売却ができるため、インターネット社会においては普及が見込まれるのではないかと考える。

本町においても、これまで小中学校や福祉団体による廃品回収等、様々な減量化の取り組みを行ってきたが、住民の利便性等を考え、新たな取り組みにチャレンジし、更なる減量化を検討することが必要と思われる。

住民に理解・協力が得られ、廃棄物処理費の低減により環境に配慮した取り組みに期待したい。



元日の地震、まさに天災は何時起こるかわからないことを痛感した出来事でした。亡くなられた方々、被災された方々に心より哀悼の意とお見舞いを申し上げます。

専門家のコメントを

テレビで見ましたが、予想していた中で最悪の規模と実態であったとの事です。

我々の地域も南海トラフ地震が、今すぐ起こりつつもおおしくありません。震度6強から6弱、町内すべてが

強い揺れに襲われます。

最悪のシナリオをいつも頭に描きながら、その時自分はどのような行動をしなければいけないか、心構えをしておく必要があります。とはいっても、なかなかそうはならないのが人間です。甘さがあります。「自分はこうなっても構わない」と思われている方もおられるでしょう。

しかし、多くの皆さんの悲しみ、多くの皆さんの労力が伴うことを考えるなら、できるだけ備えをしておかなければなりません。元日にあたり、意を新たにしたいところです。

(原 孝文)

